



大和中ロータリークラブ会報

TAKE TIME TO SERVE

時間を捧げよう 奉仕のために
1980-81 R.I 会長 ロルフ・J. クラリッヒ

第 140 回 例会 56 年 4 月 9 日 (木) 晴 第146号

出席報告

会員数	出席数	出席率	前回の修正
39名	33名	84.62%	100%
欠席者 布施, 後藤, 伊藤英, 国方, 鈴木, 土屋			

亀谷会長テーマ 全人類に愛と善意を

司会 SAA 北砂 富三君
ソングリーダー 中西 功君「奉仕の理想」

ピシター

大堀敏夫君(厚木中), 星幸男君, 町田実君, 石井勇君, 石井義久君, 河野重康君, 宮東悠君, 浜野忠良君, 矢口禎男君(大和), 川口正光君(座間)

会長報告

1. 新会員の紹介発表を致します。先日お手元にプリントを配布致しました三浦泰之君です。東京土木工業㈱専務取締役です。尚委員会の所属は親睦活動委員会になります。推薦者藤田会員の紹介「三浦君のお父上は東京土木工業㈱を、南林間で古くからやって居られ、大型の浄化槽の工事等をなさっているので御存知の方も多いかと思います。その長男である泰之君が専務取締役でございます。年は若いですが皆様の宜しき御指導を給りたく願致します。」三浦君「ロータリークラブに入らせて頂き有難うございます。どう言うものかまだよくわかりませんが自分なりに勢いいっぱいやりたいと思います。又先輩方のご指導ご鞭撻を願致します。」

2. 布施会員がグアムRCにメーキャップされて、バナーの交換をして来られましたのでこのバナーを御披露致します。(回覧)

幹事報告

1. 来る4月11日(土)に藤沢南RCのチャーターナイトが開催されます。登録は12.30 p.m, 場所は藤沢市民会館です。登録者, 亀谷, 寺田, 後藤, 合田, 松本(三), 大高, 富沢の諸氏はお忘れなく。
2. 次週4月16日(木)の例会は例会場を車体工業㈱に移し, 工場見学会を兼ねた例会になります。駐車場は配布のプリントによって下さい。例会後1時間以内で工場の見学を行います。
3. 先日配布した「国際ロータリークラブ定款」に一部訂正があり本日訂正文を配布しておきましたので各自で修正をお願い致します。
4. 本日は例会後定例の理事役員会を開催します。尚次年度の理事役員の方もお残り下さい。

本日のプログラム 4月16日
車体工業㈱で例会及見学会

次週予定 4月23日
「雑誌週間にあたり」佐藤 実君

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か

3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

事務所 : 大和中央1-5-40
及び 大和市商工会館内
例会場 電話0462(63)7926

例会日 : 毎週木曜日12時30分より
会長 : 亀谷 志郎 副会長 : 伊藤 正男
幹事 : 富沢 重徳 会報委員 : 有沢・長谷川・藤田

委員会報告

親睦活動委員会 古木副委員長

1. 本日のお祝の方をご紹介します。おめでとう！
- | | | |
|-------|--------|---------|
| 結婚記念日 | 高橋政勝 | (4月10日) |
| 入会記念日 | 竹之内弘美君 | (4月12日) |
| | 保田 達君 | (4月12日) |
2. 5月17日の家族会の出欠表を回覧しておりますなるべく早めに出欠をきめて頂きたいと思ひます。(バス等の手配のため)

卓話

国際伝染病の概説

国際奉仕委員長 上田利久

ロータリーに国際委員会がある如く伝染病にも国際伝染病という分野があります。今日はこの事についてお話しを進めて参りたいと思ひます。

皆さんは、法定伝染病という言葉をお聞きになったことがあると思ひますが、現在我が国に於ては、コレラ、赤痢、腸チフス、パラチフス、痘瘡(これは昨年この地球上から姿を消したということがWHOを通じて宣言されております)、発疹チフス、猩紅熱、ジフテリア、流行性脳脊髄膜炎、ペスト、日本脳炎の11種類が指定されております。これ等は国の命令によって隔離治療することが義務づけられております。幸いにも現在日本では殆んど発生をみておりません。ところが東南アジア、アフリカ等低開発国においては未だ可成りの流行があり、一年中世界の何処かで伝染病は発生しているのです。従ひまして、現在の日本においては、輸入伝染病(輸入感染症)としての理解が必要となつて来ますが、この事については前月の卓話でふれましたので省略させて頂きます。

では、国際伝染病とは一体何んでしょうか。我が国に於て、国際伝染病なる概念が生れたのは、1976年日本人で海外からの帰国の途中、航空機の中で、ラッサ熱患者と接触した疑のある若干名のものが羽田空港から入国した時に始まります。幸にこの際は患者の発生はみられなかったのですが、この事件を契機として、ラッサ熱、あるいは一般

に流行性出血熱として恐れられている病気の対応について厚生省の中に国際伝染病小委員会が設置され、検討が進められる事になったのです。

【このあとラッサ熱、マールブルグ熱、エボラ出血熱、韓国型出血熱、について ①発生状況、②感染源、③伝播様式、④潜伏期間、⑤臨床症状、⑥治療法についてくわしくお話がありました。これは配布のプリントを参照して下さい。】

以上4つの病気について述べて来ましたが、幾つかの共通点があることにお気付のことと思ひます。即ち¹高熱を伴った全身の出血傾向が著しく、可成り²高い死亡率を示す、恐ろしい伝染病であること、そして何れも³大型のウイルスによって起っていることであります。

さて、近頃は日常生活の中でもウイルスという言葉がしばしば使われておりますが、ウイルスとは、何んでしょうか。いわゆる一般細菌とは違う病原体であります。このウイルスについてお話を致します。(プリント参照)大腸菌とかコレラ菌など一般細菌は比較的大きく 2μ ($1\mu = \frac{1}{1000}\text{mm}$)で光学顕微鏡で見ることが出来ますが、ウイルスはより小さく電子顕微鏡でなければ検出することが不可能な程小さいのです。古く細菌学の実験器具として細菌濾過器(フィルター)が使われており、いわゆる細菌によって起る病気の病原体はこの濾過器を通ることが出来ませんが、この濾過器を通過してしまい、しかも光学顕微鏡(当時は電子顕微鏡はありません)で検出することの出来ない病原体があるということが1898年LOFFLERらによって確認されました。これがウイルスであります。ウイルスは細菌とは更に違う点が2つあります。その1つは人工培養が不可能なこと、(組織培養とか動物培養によってのみ増殖する)もう1つは細菌には殺菌的或は静菌的に作用するところの抗生物質が多くありますがウイルスには殆んど効がないという点にあります。

只今紹介した激しい国際伝染病などのウイルスは勿論のこと、水痘、オタフク等のウイルスさえ積極的な治療は現在ありません。その主力は対症療法であり、一部に回復患者血清或はインター

フェロンの投与が試みられております。このインターフェロンは近頃脚光をあびている所です。

この様な厄介なウイルス性伝染病は先づ隔離することが必要ですが、収容した病院内で二次感染更に三次、四次感染さえ起す恐ろしい病気となり従来行われて来た所謂隔離病棟などでは全くお話しにならないという事になってしまいました。そこで病室内を陰圧にし、プラスチック性のアイソレーターに収容し、医療従事者は宇宙服の様な防護衣を着用し治療に当らなければならないのです。病室内の空気はフィルターによって濾過後排出し、また天井材等もホルマリン消毒に耐える様な密閉式でしかも腐蝕されない材質が要求されるのです。このような高度安全病室は、ヨーロッパ、アメリカ等では或る程度整備されているようです。我が国に於ても1979年に、たった4ベットで約5億円というお金をかけて都立荏原病院に設置され、また高度安全実験室も国立予防研究所の中に設けられました。この様にして一応設備は整ってはおりますが、とにかく未経験な恐ろしい病気であり、実際に成田空港から患者が入国した場合どれ程の対応が成されるでありましょうか、いささか不安を感じるものであります。狭くなった地球上ではWHO世界衛生機構等の中で各国が疫学的情報を交換し合い早期に予防的対策を立てることが必要になって参ります。

さて**生体にウイルスが侵入した場合**、いろいろの手段によって防禦体制がとられますが、(1)上気道粘膜の繊毛作用によりウイルスを外部に追い出そうとします。(2)リゾチーム等の酵素を含んだ粘液によってウイルスの侵入を喰い止め浄化が進みます。(3)局所の炎症即ち発熱によって局所組織には酸素欠乏状態が起り、加えて酸性化(PHの低下)によってウイルスの増殖を抑えようとの防禦機点が働くのです。

このような機点にも拘わらずウイルスが体内に侵入すると**第2の防禦手段**として、ウイルス侵入後、数時間頃よりインターフェロン(I, F)が産生され、末だ感染されていない隣接の細胞に働いてウイルス感染の広がるのを防ぎます。このI

Fは数日で血中より消失しますが、この頃よりIgM抗体が現れ更に数日後にはIgG抗体が出現しウイルスの活動を抑えようと働きます。また一方では細胞免疫機点も成立し、生体の防禦反応は強固なものとなるのです。そして多くの場合自然治療の方向にと経過して行きます。ところがこの**防禦反応が力及ばない場合には**どうなることでしょうか。その時は細菌感染にみられる敗血病と同じように、ウイルス血症を起し全身にばらまかれるのです。大変不思議なことにウイルスはそれぞれ好みがあり、ラッサ熱、マールブルグ熱等のウイルスは毛細血管に親和性があり結果として全身の出血傾向がみられるものと思われます。

ところでIFは腫瘍ウイルスに対しても大きな役割を持っていることが次第にわかって来ました。ウイルスによって来ると考えられている悪性腫瘍には、白血病、骨肉腫などがあげられておりますが、これらの不治の病に対して可成りの効果が期待されております。これはIFのウイルス抑制効果と相俟って、いわゆる細胞性免疫機能が回復し、より効果的に働くのではなかろうかと推測されております。現在臨床的にIFは実際にはこれを静注又は筋注によって持続的に大量の投与が行われております。先程の国際伝染病に対してもこのIFが投与され軽快したとの病例報告も幾つか見られます。身近なところでは、ウイルス性肝炎に対しても可成り使われており、その有効性が認められております。やがては最も一般的なカゼウイルスの予防さえも可能になるかもしれません。そして我々人間の敵、癌の治療においても、細胞免疫の伊達男インターフェロンは大いに期待されるものです。

限られた時間内にしかも末だ研究段階の分野のお話のため、おわかり難い点多かったかも知れませんが、国際伝染病、ウイルス、或はインターフェロンの新聞記事をお読みになると、いま一度お手元のプリントに目を通して頂けるならば幸せであります。ご清聴を感謝致します。

(先生のお話の中でインターフェロンのことがくわしく述べられて居りましたが、紙面の都合上、

この部分は本号では割愛させて頂き、興味のあることなので後日改めて掲載致します。—会報委員)

(長谷川記)

“たべるもの” (その3)

ねえー、今晚なに食べたいー、なんて言っている買物中の親子の会話が耳にはいった。振りかえって見ると、その親子、母親の方は別にしても、話しかけられている子供の方はなんと、せいぜい4才か5才位の子供、うんー、わかんないー、母親は更に続けて、パパも自分の食べたいものハッキリ言ってくると楽なんだがなー、と思案投首の態、あの親子今夜はどんな食事になったのかな、ひとごとながら一寸ばかり気掛りでした。食事の仕度は豊富に品揃えの整った売場へ出向くため、知らず知らずの中に一寸ばかり高い品へ手がのびる。したがって、この頃の食事(食餌)はご馳走続きで、どちらさんのご家庭でも、いささか食傷気味になってはいませんか。そんな時、一食位あまり栄養がどうの、カロリーがどうのなんてこだわらないで、お茶漬などはいかがでしょう。

茶漬、そのものは冷や飯に熱い番茶をかけてすすり込む、質素できわめて簡単なものでありました昔は。それが、GNPとやらの上昇の影響でしょうか、食生活の余裕からでしょうか。それとも味覚の発達だったのでしょうか、昔の茶漬が、お茶漬に変わったと思ったら、なんと、温かいご飯に鯛のさし身、海老の天麩羅、まぐろのさし身などなど、たいへん高価な材料がお目見えするようになりました。本来、茶漬などの材料は、ゴマ塩、焼ノリ、塩昆布、味噌漬、佃煮、塩ザケ、干ダラなど、こんなところが主役でした。そして冷や飯でよかったのです。冷や飯で。ところが、高級な材料がお目見えするようになると冷や飯では合わない、炊きたての温かいご飯に濃い煎茶となりました。茶漬のお茶は、ほうじ仕立の番茶が一番よく調和する。濃い煎茶などはどうみても行き過ぎでしょう。食べのこしになった塩ザケをもう一度焼き、ほぐして、それに少々のお酒をかけ、炒つた切りゴマ、焼いたもみノリ、小口切りにした三葉に少々ワサビと漬け物ではいかがでしょう。

スマイルボックス

大和RC 星会員 またまた、中クラブにお邪魔致しました。どうぞよろしく。

大和RC 河野会員 久しぶりにお伺いしました。

大和RC 石井(勇)会員 久しぶりです。

大和RC 宮東会員 大和クラブの姉妹クラブ、幹国仁川東RCを訪問しました折、お土産品のことで松本三郎会員にお世話になりましたので、あらためてお礼申し上げます。

大和RC 浜野会員 たいへんお世話になります。

大和RC 矢口会員 またお世話になります。

土屋会員 本日3名の留学生が成田より帰国します。見送りのため欠席致します。皆様の2年間に亘る心暖まるご支援に感謝致します。

上田会員 先日職員の送別会、鮎忠にて行いました、楽しい一時を過ごすことが出来ましたことを感謝いたします。石渡さん有難う。

藤田会員 本日新入会員、三浦泰之君をおつれ致しました。よろしくお願い致します。

三浦会員 本日より入会させて頂きました。これからどうぞ宜しくお願い致します。

寺田会員 三浦さんは大和建设協会と一緒にの方です。三浦さん入会お目度うございます。

高橋会員 17回目の結婚記念日を迎える事が出来ました。今後とも宜敷くお願い致します。

竹之内会員 入会記念を祝って頂き有難うございます。これからも宜敷くお願い致します。

保田会員 今日、入会記念のお祝を頂き誠に有難うございました。本当にこのクラブに入会出来た事を皆様に感謝致します。これからもどうぞよろしくお願い致します。